

付

特許・実用新案登録一覧

—昭和56年度—

<日本特許> 62件

N	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
1	48-76136 (48. 7. 7) (55. 6. 12) (56. 1. 22) (大槻 進, 宮之原 熨 水井 規雅, 河村 秀雄)	55-21763 (55. 6. 12)	1029768 (56. 1. 22)	陰イオン交換樹脂の製造法	(1) ポリ塩化ビニルに硫黄, ジチオール, ザンテート及びジチオカルバメートから成る硫黄化合物の少なくとも一種といずれも1~3級のアルキルモノアミン, アルキルジアミン, ポリアルキルポリアミン, 芳香族アミン, 複素環式含窒素化合物から成るアミン類の少なくとも一種とを極性液体中で 20°C~140°C の範囲で加熱反応させることを特徴とする陰イオン交換樹脂の製造法。 (2) ポリ塩化ビニルに硫黄, ジチオール, ザンテート及びジチオカルバートから成る硫黄化合物の少なくとも一種といずれも1~3級のアルキルモノアミン, アルキルジアミン, ポリアルキルポリアミン, 芳香族アミン, 複素環式含窒素化合物から成るアミン類の少なくとも一種とを極性液体中で 20°C~140°C の範囲で加熱反応させる方法に於いて, ポリ塩化ビニルに該硫黄化合物の少なくとも一種と該アミン類の少なくとも一種を混練し, 成型もしくは粉碎した後, 更に該アミン類の少なくとも一種もしくはこれと該硫黄化合物の少なくとも一種とを極性液体中で 20°C~140°C の範囲で加熱反応させることを特徴とする陰イオン交換樹脂の製造法。
2	50-6446 (50. 1. 16) (55. 6. 21) (56. 1. 22) (小坂勇次郎, 江村 徳昭, 渡辺 修三)	55-23315 (55. 6. 21)	1029780 (56. 1. 22)	熱溶融型接着剤組成物	①酢酸ビニル含量が5~50重量%, メルトイソデックスが1~400g/10分のエチレン/酢酸ビニル共重合体96.7~50重量部と, ②不飽和酸/飽和酸/多価アルコールから得られた不飽和アルキド0.3~30重量部, ③有機過酸化物0.05~5重量部, ④塩化パラフィン, 芳香族系石油樹脂, スチレン系樹脂, テルペン系樹脂, クマロンインデン樹脂, ロジン, 変性ロジン, ロジンエステル等の粘着付与剤から選ばれる一種または二種以上の樹脂3~30重量部とを加熱反応して得た, 変性エチレン/酢酸ビニル共重合体より成ることを特徴とする熱溶融型接着剤組成物。
3	51-124820 (51. 10. 20) (55. 6. 21) (56. 1. 22) (森 忠芸, 大石 佳秀, 堤 宣, 川上 登)	55-23204 (55. 6. 21)	1029801 (56. 1. 22)	炭化チタンの製造法	アルミニウム, マグネシウム, アルミニウムチタン合金から選ばれた一種以上の金属と, 三塩化チタン, 二塩化チタンなどのチタン塩化物及び炭素質物質を含む原料混合物を成型し, 該原料成型物を不活性な雰囲気中で加熱することを特徴とする炭化チタンの製造法。

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
4	52-134123 (52.11.10)	55-22557 (55. 6.17)	1029807 (56. 1.22)	金属ナトリウムの製造方法 (小柴 淳治, 五十嵐 昇, 三浦 正道, 吉田 博幸, 高橋 薫, 重藤 芳雄) (東芝セラミックスと共に)	カリウム含量を減少させたナトリウム化合物の溶融塩を陽極部とし, 金属ナトリウムを陰極部とし, これらを1価アルカリイオンに対して透過性の結晶質セラミック材料を介して隔て電気分解することを特徴とするナトリウム化合物から金属ナトリウムの製造方法。
5	56-844 (49.12.30)	55-229 (55. 1. 7)	1031647 (56. 1.29)	被覆金属管 (植村 勝, 越田 展弘, 黒木 齊, 小坂勇次郎)	(1) 地下埋設用の金属管の表面に, 酢酸ビニル含量が15~40重量%でメルトイソデックスが10~1,000 g/10分のエチレン-酢酸ビニル共重合体を5~40重量部と低分子量プロピレン-エチレン共重合体の酸化物又は低分子量プロピレン重合体の酸化物又は, エチレン-酢酸ビニル共重合体の酸化物2~25重量部と合成ゴム成分5~30重量部と粘着化樹脂5~50重量部とアスファルト10~80重量部と配合してなる組成を0.1~50 mmの厚さに被覆し, この層の上に, ポリオレフィン又はポリ塩化ビニル層を被覆し, さらに, その表面にはく離層を被覆し, さらに, その上にポリオレフィン層を被覆した被覆金属管。 (2) 特許請求の範囲第(1)項において、最外層のポリオレフィン層は、0.1~15重量%のシリカ粉末を配合したものであり、内部のポリオレフィン層は0.1~15重量%のカーボンプラックを配合したものであることを特徴とする被覆金属管。
6	48-9933 (48. 1.25)	55-21030 (55. 6. 6)	1032483 (56. 2.20)	p-2-ハロエチルベンゼンスルホン酸の製造法 (藤井 一, 服部 達夫)	2-ハロエチルベンゼンに対して0.5ないし20重量%の有機カルボン酸の存在下で2-ハロエチルベンゼンを有機溶媒中で三酸化イオウによってスルホン化することを特徴とするp-2-ハロエチルベンゼンスルホン酸の製造法。
7	49-81673 (49. 7.18)	55-26148 (55. 7.11)	1033313 (56. 2.20)	トリアルコキシランの製造方法 (永井洋一郎, 尾島 巍, 小野 熟, 平賀 要一, 鈴木 祐二) (相模中研と共に)	トリクロルシランとアルコールとの反応によりトリアルコキシランを製造する方法において、反応系におけるジアルコキシクロルシラン/トリアルコキシランのモル比を少なくとも0.3に維持し40°C以上の温度で反応系を液状に保ちつつ反応を行うことを特徴とするトリアルコキシランの製造方法。
8	50-42751 (50. 4.10)	55-26149 (55. 7.11)	1033321 (56. 2.20)	トリアルコキシランの製造方法 (小野 熟, 平賀 要一, 鈴木 祐二, 尾島 巍, 永井洋一郎) (相模中研と共に)	トリクロルシランとアルコールとの反応により、トリアルコキシランを製造する方法において、トリアルコキシランが生成する反応系を液状に保ち、かつ反応系における塩化水素およびアルコール濃度をそれぞれ反応系でのSi原子100モル当り7モル以下および5モル以下に維持することを特徴とするトリアルコキシランの製造方法。
9	48-57994 (48. 5.24)	55-23287 (55. 6.21)	1033477 (56. 2.20)	耐衝撃性塩化ビニル樹脂の製造方法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 鈴木 祐二, 永野 峰雄, 鈴木 光明, 斎藤 道生)	メルトイソデックスが0.1~200 g/10分で酢酸ビニル含量が10~50重量%であるエチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下に塩化ビニルとメタクリル酸メチルとを共重合させることを特徴とする3~20重量%のエチレン-酢酸ビニル共重合体と75~95重量%の塩化ビニルおよび1.5~

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
10					5重量%のメタクリル酸メチルとからなる抗張力の改良された耐衝撃性塩化ビニル樹脂の製造方法。
11	48-124407 55-26136 1034766 (48.11.7) (55.7.11) (56.2.20) (古賀 俊国, 柳原 忠久)	p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシトの製造方法			(1) p-ジイソプロピルベンゼンを分子状酸素と接触させ、得られた反応生成液からp-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを分離回収し、実質的にp-ジイソプロピルベンゼン及びp-ジイソプロピルベンゼンモノヒドロペルオキシドとからなる残液をリサイクルすることからなるp-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドの製造方法において、該反応生成液を吸着剤に接触させた後、p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを分離回収し、回収残液をリサイクルすることを特徴とするp-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドの製造方法。 (2) p-ジイソプロピルベンゼンを分子状酸素と接触させ、得られた反応生成液からp-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを分離回収し、実質的にp-ジイソプロピルベンゼン及びp-ジイソプロピルベンゼンモノヒドロペルオキシドとからなる残液をリサイクルすることからなるp-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドの製造方法において、該残液を吸着剤に接触させた後、リサイクルすることを特徴とするp-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドの製造方法。
12	51-140739 55-23570 1034903 (51.11.25) (55.6.24) (56.2.20) (井村 信一, 斎藤 光高, 森下 延男)	エチレンー酢酸ビニル共重合体ケン化物のカルボキシル化方法			エチレンー酢酸ビニル共重合体ケン化物の存在下、アクリル酸、メタクリル酸、マレイイン酸、フマル酸、イタコン酸、無水フレイン酸、無水イタコン酸、マレイイン酸やフマル酸のメチルおよびエチル水素エステルから選ばれる α , β -不飽和カルボン酸および/またその無水物を、一般式
					$\text{CH}_2 = \text{C} \begin{array}{l} \diagup \text{X} \\ \diagdown \text{Y} \end{array}$ (ただし、X, Yは異種または同種で水素、塩素、アルキル基、アセトキシ基、カルボン酸エステル基、シアノ基からなる群から選ばれる)を有する少なくとも一種のビニリデンモノマーの共存下または非共存下に反応する際に、反応媒体として酢酸エステルもしくは酢酸エステルと低級アルコールの混合物を用いて不均一系で反応を行うことを特徴とするエチレンー酢酸ビニル共重合体ケン化物のカルボキシル化方法。
	51-143489 55-23571 1034904 (51.12.1) (55.6.24) (56.2.20) (井村 信一, 斎藤 光高, 森下 延男)	エチレンー酢酸ビニル共重合体のカルボキシル化の方法			エチレンー酢酸ビニル共重合体の存在下、アクリル酸、フマル酸、マレイイン酸、イタコン酸、メタクリル酸、無水マレイイン酸、無水イタコン酸マレイイン酸やフマル酸のメチルおよびエチル水素エステルから選ばれる α , β -不飽和カルボ

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					ン酸および/またはその無水物を反応する際に反応媒体として酢酸エステルもしくは酢酸エ斯特ルと低級アルコールの混合物を用いて不均一系で反応を行うことを特徴とする該重合体のカルボキシル化の方法。
13	51-144727 55-23572 1034907 (51.12.3) (55.6.24) (56.2.20) (井村 信一, 斎藤 光高, 森下 延男)	ポリエチレンのカルボキシル化方法	ポリエチレンの存在下, アクリル酸, メタクリル酸, マレイン酸, フマル酸, イタコン酸, 無水マレイン酸, 無水イタコン酸, マレイン酸やフマル酸のメチルおよびエチル水素エ斯特ルから選ばれる α , β -不飽和カルボン酸および/またはその無水物を一般式	$\begin{array}{c} X \\ \diagdown \\ \text{CH}_2 = \text{C} \\ \diagup \\ Y \end{array}$ <p>(ただし, X, Yは異種または同種で, 水素, 塩素, アルキル基, アセトキシ基, カルボン酸エ斯特ル基, シアノ基からなる群から選ばれる) を有する少なくとも一種のビニリデンモノマーの共存下または非共存下に反応する際に, 反応媒体として酢酸エ斯特ルもしくは酢酸エ斯特ルと低級アルコールの混合物を用いて不均一系で反応を行うことを特徴とする該重合体のカルボキシル化の方法。</p>	
14	47-39133 55-21020 1035678 (47.4.20) (55.6.6) (56.2.26) (大槻 進, 玉井 良和, 大門 治三)	2・3-ジクロロ-1・3-ブタジエンから窒素化合物を除去する方法	酸化窒素の存在下で蒸留して得た窒素化合物を含む2・3-ジクロロ-1・3-ブタジエンを, p-tert-ブチルカテコールおよびアルカリ性水溶液と接触させることを特徴とする2・3-ジクロロ-1・3-ブタジエンから窒素化合物を除去する方法。		
15	48-143790 55-27901 1037271 (48.12.25) (55.7.24) (56.3.24) (柳原 忠久, 古賀 俊国, 深堀建太郎)	p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを製造する方法	p-ジイソプロピルベンゼンを分子状酸素と接触させ, 得られた反応生成液からp-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを分離回収し, 実質的にp-ジイソプロピルベンゼンおよびp-ジイソプロピルベンゼンモノヒドロペルオキシドからなる残液をリサイクルすることからなるp-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを製造する方法において, 該反応生成液をそのままか, または該反応生成液からp-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを分離した残液を, クロム, コバルト, 鉄, 銅, ニッケル, インジウム, 亜鉛, アルミニウム, 鉛, ビスマスおよびカドミウムから選ばれる少なくとも一種の金属の固体水酸化物に接触させた後, 前者の場合にはp-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを分離回収し, 残液をリサイクルすることを特徴とするp-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを製造する方法。		
	50-53259 55-27902 1037345 (50.5.6) (55.7.24) (56.3.24) (柳原 忠久, 井上 孝彦, 水津 辰治, 木原 啓一)	副生成物の除去法	p-ジイソプロピルベンゼンまたはp-ジイソプロピルベンゼンとp-ジイソプロピルベンゼンモノヒドロペルオキシドの混合物の分子状酸素による酸化反応により得られる反応生成液か		

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
16					ら、P-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを除いた残液に、炭素数1～4のモノカルボン酸類のうち少なくとも一種、炭素数5～8のパラフィン類またはシクロパラフィン類のうち少なくとも一種および水を接触させて、当該酸化反応により生成する副生成物を抽出することを特徴とする酸化反応生成液中の副生成物の除去法。
17	50-53869 (50. 5. 7)	55-27903 (55. 7. 24)	1037346 (56. 3. 24)	副生物の除去法 (柳原 忠久, 井上 孝彦, 水津 辰治, 木原 啓一)	P-ジイソプロピルベンゼンまたはP-ジイソプロピルベンゼンとP-ジイソプロピルベンゼンモノヒドロペルオキシドの混合物の分子状酸素による酸化反応により得られる反応液あるいはこの反応液からP-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを除いたあとの反応液に、炭素数1～4のモノカルボン酸類のうち少なくとも一種および水を接触させて、当該酸化反応により生成するP-ジイソプロピルベンゼンモノヒドロペルオキシド及びP-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシド以外の副生物を抽出除去することを特徴とする酸化反応液中の副生物の除去法。
18	51-13941 (51. 2. 13)	55-29926 (55. 8. 7)	1037404 (56. 3. 24)	抽出リン酸中の硫酸根の除去法 (菊地 光雄, 平賀 要一)	(1) リン酸中の溶存硫酸根濃度を300～50重量ppmに保持しつつ、該リン酸に抽出リン酸とバリウム化合物とを連続的に添加することを特徴とする、抽出リン酸中の硫酸根の除去法。 (2) リン酸中の溶存硫酸根濃度を300～50重量ppmに保持しつつ、該リン酸に抽出リン酸とバリウム化合物とを連続的に添加する第1工程、および第1工程でえられたスラリーにバリウム化合物を添加して熟成させる第2工程からなることを特徴とする、抽出リン酸中の硫酸根の除去法。
19	51-107931 (51. 9. 10)	55-29930 (55. 8. 7)	1037433 (56. 3. 24)	ゼオライト造粒体 (角田 広一, 川合 正久)	(1) ゼオライト粉末と粘土との混合体からなる1～2mmの直径を有する核上に、ゼオライト粉末と粘土とからなる0.5mm以下の微粒を積層してなる单一粒子密度1.8～2.0g/mlを有するゼオライト造粒体。 (2) ゼオライト粉末に粘土、水溶性セルロースエーテル及び水を加え、混練し、得られた混練物を0.5mm以下に粉碎し、該粉碎物に接着液を添加し造粒して1～2mmの核を形成し、該核上に前記粉碎物を接着液を添加しながら積層し、次いで焼成することを特徴とする单一粒子密度1.8～2.0g/mlを有するゼオライト造粒体の製造方法。
20	50-82689 (50. 7. 7)	55-30705 (55. 8. 13)	1039566 (56. 3. 31)	スチレンスルホン酸塩水溶液の保存方法 (服部 達夫, 玉林 範三, 木原 啓一, 小田 康弘)	pH7以下のスチレンスルホン酸塩水溶液中にN・N'・ジフェニル-p-フェニレンジアミンを含有せしめることを特徴とするスチレンスルホン酸塩水溶液の保存方法。
	51-45344 (51. 4. 23)	55-30361 (55. 8. 11)	1039578 (56. 3. 31)	スキー靴およびその製造法	(1) メルトインデックス30～40g/10分、酢酸ビニル含量5～40重量%のエチレン酢酸ビニ

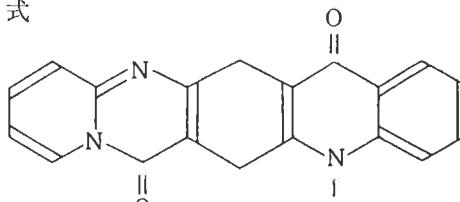
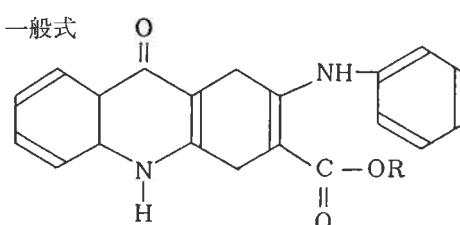
No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
21	(鈴木 泰治, 小坂勇次郎, 植村 勝, 三原 信一)				<p>ル共重合体をメルトイソデックス3~40g/10分, 酢酸ビニル含量5~40重量%のエチレン-酢酸ビニル共重合体を1~99%けん化したエチレン-酢酸ビニル共重合けん化物に0.1~5.0の比(重量比)の範囲においてブレンドして成り, 酢酸ビニルの重量%とビニルアルコールに加水分解された酢酸ビニルの重量%×1/2の和が15重量%以上30重量%以下でかつ上記における酢酸ビニル含量が10~29重量%, 残部がエチレンより構成されるブレンド組成物より成ることを特徴とする一体に成型されたスキー靴。</p> <p>(2) メルトイソデックス3~40g/10分, 酢酸ビニル含量5~40重量%のエチレン酢酸ビニル共重合体をメルトイソデックス3~40g/10分, 酢酸ビニル含量5~40重量%のエチレン-酢酸ビニル共重合体を1~99%けん化したエチレン-酢酸ビニル共重合体けん化物に0.1~5.0の比(重量比)の範囲においてブレンドして成り, 酢酸ビニルの重量%とビニルアルコールに加水分解された酢酸ビニルの重量%×1/2の和が15重量%以上~30重量%以下でかつ上記における酢酸ビニル含量が10~29重量%, 残部がエチレンより構成されるブレンド組成物を射出成形し, シリコーン油で表面艶出しすることを特徴とする一体に成型されたスキー靴の製造法。</p>
22	52-79517 55-32642 1039590 (52. 7. 5) (55. 8. 26) (56. 3. 31) (中谷 正樹, 菊地 光雄, 中本 義行)			抽出残液からリン酸分の回収方法	<p>リン鉱石を鉄酸で浸出して得た粗リン酸中のリン酸分を溶媒抽出した後の抽出残液中のリン酸分をリン酸アルカリとして回収するにあたり,</p> <p>(a) 該抽出残液中のリン酸分に対して $\text{Fe(III)}/\text{PO}_4$ (モル比) が2.0以下になるように三価の鉄化合物を90°C以下の温度で反応させ, この際, 反応液のpHを $\text{Fe(III)}/\text{PO}_4$ (モル比) 1.0以下においては,</p> $\text{pH}=0.9+0.7 \times (\text{Fe(III)}/\text{PO}_4)$ <p>以下に, $\text{Fe(III)}/\text{PO}_4$ (モル比) 1.0~2.0の範囲においては,</p> $\text{pH}=2.8-1.2 \times (\text{Fe(III)}/\text{PO}_4)$ <p>以下に, 調整し, 生成した沈殿物を母液から分離する第一工程,</p> <p>(b) 該第一工程で得られた沈殿物をアルカリ性物質と反応させ, 該沈殿物中の実質的にすべてのリン酸分を溶液中に回収してリン酸アルカリ液を得, 生成した水酸化鉄を分離する第二工程, からなる抽出残液中のリン酸分をリン酸アルカリとして回収する方法。</p>
	52-101732 55-30751 1039591 (52. 8. 26) (55. 8. 13) (56. 3. 31) (栗原 憲司, 笠原 重一, 鈴木 孝)			常温硬化型水性塗料組成物	<p>(a) エチレン性不飽和二重結合を有する含窒素塩基を含む单量体</p> <p>(b) リン酸基又はこの塩もしくはエステルを含むエチレン性不飽和二重結合を有する单量体</p> <p>(c) カルボン酸塩基又はこの塩を含むエチレン</p>

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
23					性不飽和二重結合を有する単量体 (d) 前記(a), (b)又は(c)と共重合しうるエチレン 性不飽和二重結合を有する単量体 上記(a), (b), (c), (d)の四者を塩基性物質の存 在下又は不存在下で溶液重合させて得た共重 合体(A)または共重合体(A)に塩基性物質を加え て生成する共重合体(B)とアルコール系溶剤に 可溶なエポキシ樹脂(c)とを混合してなる常温 硬化型水性塗料組成物。
24	46-66337 55-34178 1042851 (46. 8.31) (55. 9. 5) (56. 4.23) (迫村 寿男, 清水 明彦, 坂中 靖弘)	クロロブレンエラスト マーの製造法			(a) クロロブレンモノマーまたはクロロブレン モノマーと他の共重合しうるモノマーとの混 合物に対し, 三官能性架橋剤を1.0~3.5重量 %及び重合調節剤を0.30~0.45重量% (n-ド デシルメルカプタン換算) 加え, 転化率85% 以上で重合させてえたベンゼン不溶性のゲル 状クロロブレン重合体と, (b) クロロブレンモノマーまたはクロロブレン モノマーと他の共重合しうるモノマーを重合 させてえた室温でベンゼン可溶性のクロロブ レン重合体と, (a)+(b)に対する(a)の割合が 10~80重量%の範囲にあるように混合する か, あるいはこれにさらにその15重量%以下 の ML_{1+4} (100°C) 20以下の低分子量の液状 クロロブレン重合体を混合することを特徴と する押出特性, 加工性のすぐれたクロロブレ ンエラストマーの製造法。
25	51-11327 55-33707 1042902 (51. 2. 6) (55. 9. 2) (56. 4.23) (大塩 通昭, 松原 健一, 堤 幸弘, 菊地 光雄)	フェニレンジアミンの 分離方法			ジクロルベンゼンとアンモニアの反応によ って生成したフェニレンジアミンを反応生成液から 分離取得する方法において, その反応生成液に アルカリを添加してフェニレンジアミンを遊離 の形の水溶液としたのち, この反応生成液を炭 素数3又は4の脂肪族アルコールで抽出すること を特徴とするフェニレンジアミンの分離方 法。
26	51-11324 55-33708 1042903 (51. 2. 6) (55. 9. 2) (56. 4.23) (大塩 通昭, 松原 健一, 堤 幸弘, 菊地 光雄)	アンモニア化反応の反 応生成液の処理方法			(1) ベクロルベンゼンとアンモニアの反応によ るフェニレンジアミンの製造の際の反応生成 液を処理する方法において, 反応生成液にアル カリを添加してフェニレンジアミンを遊離の形と したのち, これを水との共沸蒸留に付 することを特徴とする反応生成液の処理方 法。 (2) ジクロルベンゼンとアンモニアの反応によ るフェニレンジアミンの製造の際の反応生成 液を処理する方法において, 反応生成液にアル カリを添加してフェニレンジアミンを遊離の形と したのち, これを水との共沸蒸留に付 し, 得られた蒸留残液を炭素数3~4個の脂 肪族アルコールで抽出することを特徴とする 反応生成液の処理方法。
	51-11329 55-33709 1042904 (51. 2. 6) (55. 9. 2) (56. 4.23) (大塩 通昭, 松原 健一,	フェニレンジアミンの 製造方法			ジクロルベンゼンとアンモニアを反応させ, 反 応液から高純度のフェニレンジアミンを分離取 得する方法において, (1) ジクロルベンゼンとアンモニアを銅化合物

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
27	堤 幸弘, 菊地 光雄				<p>を触媒として反応させ、 (2) 反応生成液に水酸化アルカリを添加して pH を11~13とし、かつ過剰のアンモニアを除去し、 (3) さらにこの反応生成液を水との共沸蒸留に付して未反応物、中間生物及び副生物などを留出除去し、 (4) フエニレンジアミン、触媒銅成分及び塩化ナトリウム等を含む蒸留残液を次の(5)の工程で得られる有機溶媒相と混合し、混合液を静定したのち、有機相を有機相と水相との間に存在するコロイド層とともに水相から分離し、かつこれを沪過してコロイド層中の触媒銅成分を分離し、 (5) (4)の工程で得た水相を炭素数3又は4の脂肪族アルコールからなる有機溶媒による第二の抽出に付して水相中に残存するフエニレンジアミンを抽出し、得られた有機溶媒相を前記(4)の工程の抽出剤として使用し、 (6) (4)の工程で得た触媒銅成分を除去した後の有機相を通常の蒸留に付して有機溶媒を分離回収した後、蒸留残液中のフエニレンジアミンを減圧蒸留により精製取得することを特徴とするフエニレンジアミンの製造方法。</p>
28	47-75965 55-29134 1045393 (47. 7.31) (55. 8. 1) (56. 5.28) (田畠 智一, 生重 哲男)	ウランの回収法			リン鉱石からリン酸を溶媒抽出した後の廃液を pH 1~2 に調整し、折出する沈殿にウランを共沈せしめて高濃度ウラン沈殿物として回収することを特徴とするウランの回収法。
29	50-4866 55-38024 1045443 (50. 1.10) (55.10. 1) (56. 5.28) (西村 義毅, 安達 忠夫, 崎山 和孝, 原田 憲二) (日本金属工業と共に願)	アンモニアソーダ法または塩安ソーダ法装置用耐食材料			アンモニアソーダ法または塩安ソーダ法における工程液を処理する装置材料にして、C ; 0.05% 以下, Si ; 1.0% 以下, Mn ; 2.0% 以下, Ni ; 12.0~20.0%, Cr ; 15.0~22.0%, Mo ; 4.0~7.0% で残部が実質的に Fe から成るオーステナイト系ステンレス鋼。
30	51-10044 54-44280 1045463 (51. 2. 3) (54.12.25) (56. 5.28) (菊地 光雄, 村上 次雄)	高度さらし粉の製造法			次亜塩素酸カルシウムと塩化ナトリウムを主とする水溶液に石灰又は石炭と水を加え、生成した二塩基性次亜塩素酸カルシウムを含むスラリー又はケークに前記水溶液よりも次亜塩素酸カルシウムの濃度が低く、かつ塩化ナトリウムを含有する水溶液に苛性ソーダを加えて塩素化し、析出する塩化ナトリウムを分離除去した沪液を加えて塩素化し、次亜塩素酸カルシウム結晶を主成分離せしめることを特徴とする高度さらし粉の製造法。
31	52-20252 55-38436 1045496 (52. 2.28) (55.10. 3) (56. 5.28) (田嶋 栄, 毛利 隆, 森崎 重喜)	クロムメッキ電解浴			(1) 3価クロム塩化物、(2)アミノ酸、カルボン酸、オキシカルボン酸又はこれらの塩の少なくとも一種、(3)ハロゲン化アルミニウム、(4)アンモニウムイオン、更に必要に応じて(5)アルカリ金属の塩化物、アルカリ土類金属の塩化物等の少なくとも一種を含むクロムメッキ電解浴。
	47-101123 55-29115 1048139 (47.10.11) (55. 8. 1) (56. 5.28)	強靭な複合フィルムの製法			ポリエチレンまたはエチレン共重合体をラミネート化した複合フィルムを製造するにあたり、

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
32	(小坂勇次郎, 植村 勝, 木村 正歳, 斎藤 光高, 山本 鉄也, 藤井 秀雄)				<p>あらかじめ基材となるフィルムに酢酸ビニルを5-70重量%を含み, メルトイインデックスが0.1~500 g/10 min の範囲内にあるエチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下, α, β 不飽和カルボン酸および/またはその無水物と, 一般式</p> $\text{CH}_2 = \text{C} < \begin{matrix} \text{X} \\ \text{Y} \end{matrix}$ <p>(ただし, X, Yは異種または同種で, 水素, 塩素, アルキル基, アセトキル基, カルボン酸エステル基からなる群から選ばれる)。</p> <p>を有する少なくとも一種のビニリデン単量体を共重合することによって得られた, メルトイインデックスが 0.1~500 g/10 min, 酸価が 1~250 mgKOH/g の物性のカルボキシル化エチレン共重合体をヘキサン, ヘプタン, トルエン, キシレン, 酢酸エチル, エチレンジクロライド, プロピレンジクロライド, トリクロレン, トリクロロエタン, ジオキサン, テトラヒドロフラン等より選ばれた溶媒に溶解して5-10%濃度の溶液として表面の平滑なフィルムに塗布し, この塗布した面にポリエチレンまたはエチレン共重合体をラミネートすることを特徴とする複合フィルムの製法。</p>
33	48-42122 55-40551 1048146 (48. 4. 16) (55. 10. 18) (56. 5. 28) (月館 隆明, 田中洋三郎, 門木 宏道)	微結晶質材料の製造方法			溶融したフェロマンガンスラグ, 又はシリコマンガンスラグを 700°C 以下に冷却し, ついで 800°C 以上溶融点未満に再加熱することを特徴とする微結晶質材料の製造方法。
34	51-42413 55-42925 1048178 (51. 4. 16) (55. 11. 4) (56. 5. 28) (藤井 咲美, 渡辺 修, 内田 昭郎)	抽残液に起因するスケールの除去方法			湿式リン酸を有機溶媒または強酸を含有する有機溶媒による抽出法で精製する際これらの抽出法で得られる抽残液から析出したスケールを, 水酸化ナトリウム, 水酸化カリウム, 水酸化カルシウム, 水酸化バリウムの群から選ばれる一種を含有する溶液と接触させて除去することを特徴とする抽残液に起因するスケールの除去方法。
	52-17215 55-42139 1051747 (52. 2. 21) (55. 10. 29) (56. 6. 26) (福西 工, 三浦 正道) (大同特殊鋼㈱と共に)	高純度金属クロムの製造方法			(1) 酸化クロム微粉末に, カーボンブラック, 人造黒鉛及びオイルコークスからなる群から選ばれた一種以上の還元剤とポリビニルアルコール又は α 殿粉からなる粘結剤を混合し, 粒径 0.01~3 mm に造粒し, この造粒物をキャリヤーガスにより, ガス源がアルゴン-水素, アルゴン-メタン又は水素-メタンからなるプラスマフレーム中に供給し, 約 2,000~3,000°C に加熱し, 熔融還元した後冷却し, 得られた粗還元物を粉碎し, 再びこれに前記還元剤を必要に応じ加え混合し, 更に前記粘結剤を配合し混練成型し, ブリケットとし乾燥し, 次いで, このブリケットを雰囲気調整を可能とした気密性の炉体を有し, かつ, 銅製の水冷式原料受器を備えたプラズマ炉に投入し, これにプラズマフレームを照射して 2,000°C 以上に加熱して熔融還元を行ふことを特徴とする高純度金属クロムの製

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
35					<p>造方法。</p> <p>(2) 酸化クロム微粉末に、カーボンブラック、人造黒鉛及びオイルコークスからなる群から選ばれた一種以上の還元剤とポリビニルアルコール又はα 殿粉からなる粘結剤を混合し、粒径 0.01~3 mm に造粒し、この造粒物をキャリアーガスにより、ガス源がアルゴン-水素、アルゴン-メタン又は水素-メタンからなるプラズマフレーム中に供給し、約 2,000~3,000°C に加熱し、熔融還元した後冷却し、得られた粗還元物を粉碎し、再びこれに前記還元剤を必要に応じ加え混合し、更に前記粘結剤を配合し混練成型し、ブリケットとし乾燥し、次いで、このブリケットを霧団気調整を可能とした気密性の炉体を有し、かつ、銅製の水冷式原料受器を備えたプラズマ炉に投入し、これにプラズマフレームを照射して 2,000°C 以上に加熱して熔融還元を行い、更に炉内を水素の非存在下とし、アルゴン-酸素をプラズマフレーム源としたプラズマフレームを照射し、脱炭を行うことを特徴とする高純度金属クロムの製造方法。</p>
36	52-25682 (52. 3. 9)	55-49089 (55. 12. 10)	1054749 (56. 7. 23)	キナゾロン誘導体の製造法 (横山 泰一, 新井 丈夫, 岩本 英次)	<p>一般式</p> <p>(式中 X 及び Y は水素又は炭素数 1 ないし 3 のアルキル基である) で表される 2,5-ビス(2-ピリジルアミド)テレフタル酸類を液状媒体中酸性条件下で分子内閉環することを特徴とする一般式</p> <p>(式中 X 及び Y は前記と同じ意味である) で表されるピリド [2,1-b] ピリド [1',2':1,2] ピリミド [4,5-g] キナゾリン-7,15-ジオン類の製造法。</p>
	52-111614 (52. 9. 19)	55-47628 (55. 12. 1)	1054766 (56. 7. 23)	シアノ基を有する共役ジエンの製造方法 (野中 悠次, 木原 啓一, 弘中 敏夫, 小田 康弘)	<p>一般式</p> $\text{CH}_2 = \underset{\substack{ \\ \text{CN}}}{\text{C}} - \underset{\substack{ \\ \text{R}_1}}{\text{CH}} - \underset{\substack{ \\ \text{OH}}}{\text{CH}} - \text{R}_2$ <p>で表される 2-シアノ-3-ヒドロキシ-1-オレフィン化合物を、水溶液として加えた塩基性物質の</p>

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
37					存在下で脱水化することによって一般式 $\begin{array}{c} \text{CN} & & \text{R}_1 \\ & & \\ \text{CH}_2 = \text{C} - \text{CH} = \text{C} - \text{R}_2 \end{array}$ で表されるシアノ基を有する共役ジエン（ただし、上記の一般式中 R_1, R_2 は水素原子、アルキル基またはフェニル基を示す）。を製造することを特徴とするシアノ基を有する共役ジエンの製造方法。
38	47-100303 55-34179 1057335 (47.10.7) (55.9.5) (56.7.31) (末永 忠行, 岸 昭雄, 原田 幸彦)	クロロブレンゴムチップの固結防止法			エチレングリコールまたはアルコールエーテル類をクロロブレンゴムチップ表面に付着浸潤させることを特徴とするクロロブレンゴムチップの固結防止法。
39	51-17496 56-1913 1059854 (51.2.21) (56.1.16) (56.8.25) (山下 守, 濑戸 弘司, 五十嵐辰夫)	発酵法による L-リジンの製造法			主たる炭素源として酢酸及び/又は酢酸塩を含む栄養培地に L-リジン生産菌を培養して L-リジンを蓄積させ、これを採取する L-リジンの製造法において、0.5ないし約2重量%の塩化ナトリウムを含む培地を用いて培養を行うことを特徴とする発酵法による L-リジンの製造法。
40	52-49080 56-1356 1059868 (52.4.30) (56.1.13) (56.8.25) (渡辺 修三, 江村 徳昭)	熱溶融型接着剤組成物			(1) 酢酸ビニル含量が5~50重量%，メルトイソデックスが1~400g/10分のエチレン/酢酸ビニル共重合体100重量部と， (2) メタクリル酸の金属塩1~15重量部， (3) 金属塩化物0.1~10重量部とを加熱反応して得た変成エチレン/酢酸ビニル共重合体より成ることを特徴とする熱溶融型接着剤組成物。
41	53-28224 56-3355 1059876 (53.3.14) (56.1.24) (56.8.25) (横山 泰一, 岩本 英次)	6,14-ジヒドロ-5H-ピリド[1',2':1,2]ピリミド[4,5-b]アクリジン-7,15-ジオン及びその製造法			(1) 式  で表される6,14-ジヒドロ-5H-ピリド[1',2':1,2]ピリミド[4,5-b]アクリジン-7,15-ジオン。 (2) 一般式  (式中, Rはメチル基, エチル基などのアルキル基を示す) で表される2-アニリノ-1,4-ジヒドロ-9-アクリダノン-3-カルボン酸エステル類を2-アミノピリジンと反応させることを特徴とする6,14-ジヒドロ-5H-ピリド[1',2':1,2]ピリミド[4,5-b]アクリジン-7,15-ジオンの製造法。

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
42	49-108723 (49. 9.24)	56-2557 (56. 1.20)	1060391 (56. 8.25)	有機けい素化合物の製造方法 (永井洋一郎, 尾島 嶽, 河野 宏道, 小野 真, 平賀 要一, 鈴木 祐二) (相模中研と共に)	式 R^1 $\text{RhH} [\text{P}(\text{Ph})_3]_4$ (式中 Ph はフェニル基を表す) で表されるロジウム錯体の存在下に, 一般式 $\begin{array}{c} \\ \text{H} - \text{Si} - \text{R}^2 \\ \\ \text{R}^2 \end{array}$ (式中 R^1 , R^2 , および R^3 は同一または異なる基であり, 低級アルコキシ基またはハロゲン原子である) で表される Si-H 結合を含有する化合物を, 少なくとも 1 個のアセチレン結合またはオレフィン結合を含有する化合物と接触させることを特徴とする有機けい素化合物の製造方法。
43	50-11850 (50. 1.30)	56-2558 (56. 1.20)	1060394 (56. 8.25)	有機けい素化合物の製造法 (永井洋一郎, 尾島 嶽, 小野 真, 平賀 要一, 鈴木 祐二) (相模中研と共に)	式 $(\text{Ph})_2\text{PCH}_2\text{CH}_2\text{P}(\text{Ph})_2$ (式中 Ph はフェニル基を示す) で表されるリン化合物を配位子とするロジウム錯体触媒の存在下に, 少なくとも 1 個の Si-H 結合を含有する化合物を, 少なくとも 1 個のアセチレン結合またはオレフィン結合を含有する化合物と接触させることを特徴とする有機けい素化合物の製造方法。
44	53-48261 (53. 4.22)	56-2081 (56. 1.17)	1059877 (56. 8.25)	重合体中の单量体除去方法 (永野 峰雄, 吉田 広)	重合体製造の際に得た粗大粒重合体やスケール状物などの派生物中の单量体を除去するに当たり, 水の存在下で該派生物を粉碎して加熱及び/又は減圧処理することを特徴とする单量体除去方法。
45	46-42166 (46. 6.15)	56-4572 (56. 1.30)	1062322 (56. 8.31)	エピクロルヒドリンとエチレン状不飽和化合物との共重合体の製造法 (小坂勇次郎, 吉田 敏郎, 秋元 明, 麻生 康紀)	有機アルミニウム化合物とヘキサメチルホスホルアミドからなる触媒を用いて, エピクロルヒドリンとメタクリル酸エステル類, アクリル酸エステル類および不飽和ニトリル類から選ばれた不飽和化合物との共重合体を製造する方法。
46	47-109869 (47. 11. 4)	56-3181 (56. 1.23)	1065634 (56. 9.30)	改良された複合体シート (小坂勇次郎, 藤井 秀雄, 佐倉 正一, 塚本 幸英, 佐藤 泰弘)	2 枚の二軸延伸されたスチレン系重合体シートもしくはフィルムの間に, メルトイインデックス 3~30 g/10 分, 酢酸ビニル含有量 5~30 重量% のエチレーン-酢酸ビニル共重合体を挟み込んで貼り合わせた 3 層構造からなる成形性の改良された複合体シート。
47	50-105668 (50. 9. 2)	56-9921 (56. 3. 4)	1065693 (56. 9.30)	粒状ゴムの製造方法及びその製造装置 (清水 明彦, 板中 靖弘)	(1) ゴムラテックスとそのゴム量 100 重量部当たり 2~8 重量部の分子中にカルボキシル基および/または水酸基を有する高分子量ポリアニオンを含む, 200~8,000 cps の粘度を有する混合溶液を, 少なくとも 1 cm の間隔でうがたれた径 0.5~10 mm の滴下孔より, 1~80 cm の滴下距離で, 1~10 重量% のアルカリ土類金属塩の少なくとも一種を含有する水溶液中に滴下することを特徴とする粒状ゴムの製造方法。 (2) ゴムラテックスと分子中にカルボキシル基および/または水酸基を有する高分子量ポリアニオンを含む混合溶液を滴下するための, 少なくとも 1 cm の間隔でうがたれた径 0.5

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					～10 mm の滴下孔を有する多孔板を底部に備え、側部に該混合溶液の液面調節用溢流口を設けた滴下槽と、その下部に、アルカリ土類金属塩水溶液を保有するためのもので、側部に上記滴下孔から該水溶液液面までの滴下距離を 1～80 cm に維持するための液面調整溢流口を設けた造粒槽を設置したことを特徴とする特許請求の範囲(1)記載の方法を実施するための装置。
48	51-133759 56-12247 1067978 (51.11. 9) (56. 3.19) (56.10.23) (三田村 孝, 森 忠芸, 川上 登)	ケイ化チタンの製造法			(1) アルミニウム, マグネシウム, カルシウム, ナトリウム, アルミニウムーチタン合金などの還元性金属の一種以上と, チタンのハロゲン化物及びケイ素とを不活性雰囲気中又は真空中で加熱することを特徴とするケイ化チタンの製造法。 (2) アルミニウム, マグネシウム, カルシウム, ナトリウム, アルミニウムーチタン合金などの還元性金属の一種以上と, チタンのハロゲン化物及びケイ素とを成型し, 該成型体を不活性雰囲気中又は真空中で加熱することを特徴とするケイ化チタンの製造法。
49	52-145096 56-11645 1067999 (52.12. 5) (56. 3.16) (56.10.23) (井川 一成, 大貝 理治, 菊地 光雄)	精製塩水の製造法			重炭酸ソーダ, 食塩, カルシウムおよびマグネシウムを含む粗塩水に石灰を添加し, 生成したフロックを分離するにあたり, 上記粗塩水中の NaHCO_3/Mg モル比を 5～40にして上記石灰を上記重炭酸ソーダに対して Ca/NaHCO_3 として 0.55～0.95 モル倍添加し, 添加した液の pH をまず 8.5～10.5 にし, ついで 11.0～12.5 に維持することを特徴とする精製塩水の製造法。
50	49-117694 56-12186 1070082 (49.10.15) (56. 3.19) (56.10.30) (続木 建治, 松永 秀秋, 真渕 俊介)	ニッケル触媒の再生方法			有機過酸化物重合体の水素化反応に使用したニッケル触媒を水素化に耐えうる含酸素極性有機溶媒中 140～250°C の温度にて水素と接触させることを特徴とするニッケル触媒の再生方法。
51	52-63179 56-12622 1070094 (52. 6. 1) (56. 3.23) (56.10.30) (野中 悠次, 西村 滋哲, 木原 啓一)	ギ酸メチルの製造方法			ホルムアルデヒドから接触的にギ酸メチルを製造するに当り, 触媒として鉛の酸化物を用いることを特徴とするギ酸メチルの製造方法。
52	52-63180 56-12623 1070095 (52. 6. 1) (56. 3.23) (56.10.30) (野中 悠次, 西村 滋哲, 木原 啓一)	ギ酸メチルの製造方法			ホルムアルデヒトからギ酸メチルを製造するに当り, ホルムアルデヒドを 150ないし 300°C で酸化鉄を触媒として反応させることを特徴とするギ酸メチルの製造方法。
53	53-1119 55-40674 1070101 (53. 1.11) (55.10.20) (56.10.30) (川寄 信弘, 吉田 直喜, 吉次 隆)	塩化アルカリの電解方法			ロータ 1段のターボ式回転粉碎機により原料アスベスト纖維をほぐしたアスベスト纖維を用いて形成させたアスベスト隔膜を隔膜法塩化アルカリ電解用隔膜として用いることを特徴とする塩化アルカリの電解方法。
54	48-123601 56-15650 1071499 (48.11. 2) (56. 4.11) (56.10.30) (山下 晋三, 三浦 克巳, 綿谷 信三, 後守 誠一)	ゴム状弾性組成物の製造方法			1-クロロブタジエンとブタジエンとの共重合体または1-クロロブタジエンとブタジエンとの共重合体を少なくとも 1 個の水酸基を有するアミノアルコール類の化合物で処理した変性共重合体 100 重量部を, 少なくとも 2 個のイソシアナ

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					ト基を有する化合物0.5~20重量部用いて架橋することを特徴とするゴム状弾性体組成物の製造方法。
55	53-78057 56-15803 (53. 6.29) (56. 4.13) (56.11.30) (斎藤 光高, 佐藤 真一, 森下 延男)	1071573		エチレン-酢酸ビニル 共重合体ケン化物の製 造方法	酢酸ビニル含量70重量%以下のエチレン-酢酸 ビニル共合体をアルカリ触媒を用い不均一系 で原形を維持しつつ内部まで均一にケン化する 方法において反応媒体として低級アルコールと 炭素数4~10のエーテル化合物の混合物を用い ることを特徴とする透明性の良好なエチレン- 酢酸ビニル共重合体ケン化物の製造方法。
56	47-104643 56-16481 (47.10.19) (56. 4.16) (56.11.30) (小坂勇次郎, 黒木 齊, 原田 義彦)	1073918		ランプ組立体製造法	ランプ固定ボデーと透明なランプ外被カバーと を該固定ボデーのわく部と外被カバーの側部と を凹凸関係状態によって嵌め合わせる該凹溝部 に、エチレン酢酸ビニル共重体と共にジエン系 ゴム状物質とポリオレフィンと粘着剤を配合して なるホット・メルト用接着剤を入れ、この上に、該外被カバーをかぶせ、一体としたまま炉中で 加熱するか、高周波処理するか、あるいは該凹溝部に該ホット・メルト用接着剤を入れ炉中で 加熱するか、高周波処理して該ホット・メルト用 接着剤を溶融せしめて炉中、高周波処理装置より 取り出して該外被カバーをかぶせることによ って、該固定ボデーと該外被カバーとを 一体となしたことを特徴とするランプ組立体製 造法。
57	47-15509 56-13698 (47. 2.14) (56. 3.30) (56.11.30) (ピーター・ジョン, ニコラス・ ブラウン)	1074351		ジクロルブテン異性化 方法	銅の化合物を触媒として、1・4-ジクロルブテン-2を3・4-ジクロルブテン-1に、あるいは3・4-ジ クロルブテン-1を1・4-ジクロルブテン-2に異性化する方法において、銅の化合物および異性化 されるべき前記ジクロルブテンのいずれかの合 計量当り0.5~10重量%のアニリンの塩素化誘 導体を該銅化合物に添加した触媒組成物を用い ることを特徴とするジクロルブテンの異性化方 法。
58	51-52109 56-18078 (51. 5.10) (56. 4.25) (56.11.30) (小柴 淳治, 高橋 薫, 杉森 正敏, 門木 宏道)	1074513		アルカリ金属の製造法	アルカリ金属の水酸化物を含む溶融塩からなる 陽極部と、該アルカリ金属の水酸化物を構成す る陽イオンと同種のアルカリ金属を含む陰極部 とを、1価アルカリイオンに対してものみ透過性 の結晶質セラミック材料を隔膜として配置して 隔て、アルカリ金属の水酸化物を電気化学的に 分解してアルカリ金属を得ることを特徴とする アルカリ金属の製造法。
59	52-17214 56-18660 (52. 2.21) (56. 4.30) (56.11.30) (福西 工, 三浦 正道)	1074562		高純度金属クロムの製 造法	酸化クロム微粉末に還元剤である炭素粉末と粘 結剤とを配合し、混合造粒し平均粒子径0.01~ 3mmの造粒物とし、これをキャリヤーガスに より、アルゴン-水素、アルゴン-メタン又は 水素-メタンからなるプラズマフレーム中に供 給し酸化クロムを還元する粗還元工程とこの 工程で得られた粗還元物を平均粒子径0.05~ 0.08mmに粉碎し、必要に応じこれに還元剤 としての炭素粉末を添加し、更に粘結剤を添加 し、混練成型しプリケットし、該プリケットを

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					真空炉に装入して真空度 0.1~20 Torr に保ち 1,200~1,500°C に加熱し固相還元を行う精製還元工程とからなることを特徴とする高純度金属クロムの製造法。
60	49-34650	56-21447	1076655 (49. 3. 29) (56. 5. 19) (56. 12. 25) (新谷 孝司, 清水 明彦)	懸濁液の処理方法	カチオン性界面活性剤の少なくとも一種を含むクロロブレンラテックスおよび/またはクロロブレン共重合体ラテックスを添加することを特徴とする懸濁液の処理方法。
61	52-12074	56-22818	1076678 (52. 2. 8) (56. 5. 27) (56. 12. 25) (杉森 正敏, 溝部 肇)	二酸化マンガンの製造方法	化学的処理で得た二酸化マンガンをマンガン鉱石に混合して焙焼し、該焙焼物を硝酸処理することを特徴とする二酸化マンガンの製造方法。
62	52-51252	56-19285	1076685 (52. 5. 6) (56. 5. 7) (56. 12. 25) (森 忠芸, 大石 佳秀)	窒化チタンの製造法	チタンハロゲン化物とアルミニウム及び/又はアルミニウム・チタン合金とを含窒素雰囲気中で窒化チタンの生成温度から 1,000°C までの温度範囲で反応させ、次いで 1,300~1,700°C の温度範囲で更に反応を行うことを特徴とする窒化チタンの製造法。

<実用新案> 2件

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	考案の名称	要旨
1	49-25382	55-33890	1376622 (49. 3. 4) (55. 8. 12) (56. 4. 30) (小瀬 勇, 藤井 秀雄, 俵口 照雄) (土屋孝志と共に)	かまぼこ包装体	酢酸ビニル含量 1~15重量%, メルトイソデックス 1~20 g/10 min のエチレン-酢酸ビニル共重合体フィルムが、かまぼこ本体と接触するようにラミネートフィルムで真空包装し、端部をヒートシールしてなるかまぼこ包装体。
2	48-147819	56-5105	1398455 (47.12.28) (56. 2. 4) (56. 9. 30) (小坂勇次郎, 植村 勝, 三原 信一, 鈴木 泰治)	立体地図ブロック	糸状片が絡みあった状態の構造をもつ不完全発泡組織の熱可塑性樹脂により全体が一体に構成され、縮小された地図の凹凸な表面と実質的に平らな裏面をもつ立体地図ブロック。